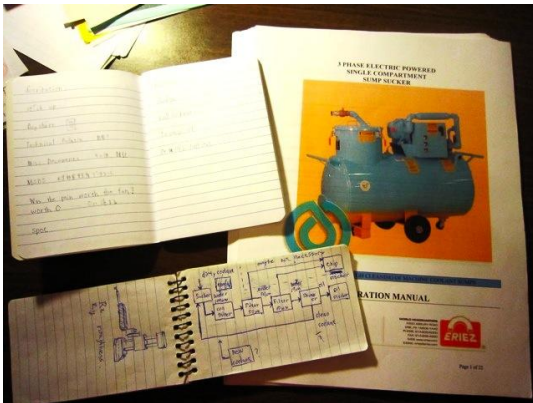


ファーストドラフト
フィンドレー大学奨学生レポート（10月）

段々とキャンパスの木々が赤く染まり、フィンドレーにも秋の到来が感じられるようになりました。先月は研修の内容をお伝えしましたが、今回はクーラントプログラムへの取り組みについて、そしてアメリカの野外ゲームの様子をお伝えしていきたいと思います。

10月初旬、私達インターンシップ生は上司にドラフトを提出しました。これは先月お伝えした、クーラントをリサイクルするシステムの概要を考えたものです。どのようなシステムであれば最も使いやすく、お金がかからないのか、そしてどれだけ利益が生まれるのか。これらのことを心に留めながら、システム作成を進めていきました。その際に常に心がけていることが、確認の作業です。相手との会話の終わりには、自分の言葉に直し相手に確認してもらうことを徹底しています。その際に、改めて気付いたことが図の大切さでした。自分の説明不足を補う為に私は図を多用するのですが、私が思っていたよりも図によって伝えられることは多く、英語での言い表し方が分からない状況ではその場で描いた図がコミュニケーションを後押ししてくれることもありました。確認と図の使用の重要性を感じられた月であったと感じています。

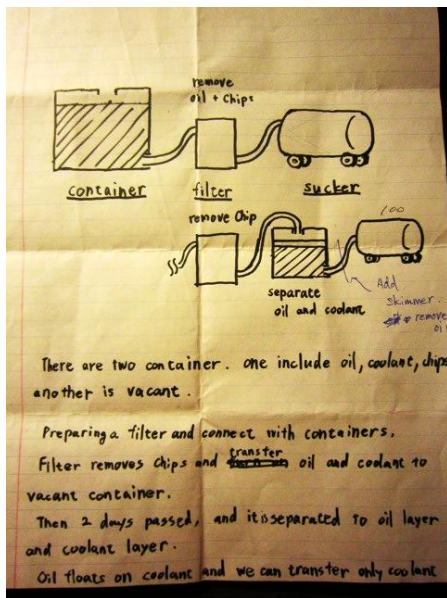
また今月は会社の方に誘われ、ペイントボールゲームに参加する機会がありました。日本ではなじみが薄いのですが、サバイバルゲームの一種であり塗料が入った球を撃ち合うというもので、アメリカでは学校のクラス単位で対抗戦をすることもあるそうです。鬱蒼とした森の中で行われ、参加する方の持参した装備も実戦的で、戦地の中にいるのだと錯覚するくらいに感じられました。その本格的な環境も相まって非常に盛り上がり、本気で遊ぶことを通して親交が深められたのは良い経験となりました。真剣に遊ぶことはどの年齢であっても、親しくなるのに最も近道となるのではないかと感じられたイベントでした。



インターンにて使う資料、メモ



ペイントボールゲームにて会社の方と



ドラフトの説明に用いた資料